

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立修多羅小学校】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	○学 校 名 北九州市立修多羅小学校 ○対象児童 V：4学年～6学年児童 84人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 体育科 特別活動 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ 総合的な学習の時間 ） ※第5学年：車椅子バスケットボール選手との交流  (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他 （ ） ③
4 目 標 (ねらい)	○ 「テコンドー」や「ボッチャ」の体験を通して、ルールへの尊重やフェアプレーの精神について学び、オリンピックやパラリンピックスポーツへの関心の向上や積極的な参画につなげていく。 ○ 車椅子バスケットボールの選手との交流や、競技用車椅子の使用体験を通して、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて、自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。

5 取組内容 【9月20日 4学年対象】 テコンドー体験

- タイ代表のテコンドーチームとの交流やテコンドー体験を通して、ルールの尊重やフェアプレーの精神について学び、オリンピックスポーツへの関心の向上や積極的な参画につなげていく。

【タイ代表チームによるテコンドー体験の様子】



【11月21、22日 第5学年児童対象】

- 車椅子バスケットボール学校交流会 11月21日

- ・ドイツ代表チーム来校

交流会の準備をすることを通して、障害者の生活の苦勞を実感したり、工夫を知ったりして、障害者と共生する社会について考える。そして、車椅子バスケットボールの競技者から話を聞いて、人間の強さ、生きがい、仲間、豊かな生活等について考える。また、体験活動として、競技用車椅子を使用したり、車椅子バスケットボールのゲームをしたりする。

- チャンピオンズカップの観戦 11月22日


交流したドイツ代表チームの試合を応援することを中心に、車椅子バスケットボールの国際試合を観戦する。

写真【ドイツチームとの交流の様子】



写真【チャンピオンズカップ応援】



	<p>○ボッチャの体験活動 11月～12月 ボッチャの体験活動を行い、障害者スポーツへの関心・意欲を高める。 写真（4学年の体験の様子）</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>○ ボッチャの体験活動を行うことで、障害者スポーツへの関心や理解を深めることができた。 また、日頃あまり馴染みのないテコンドーについても体験を行うことで関心意欲を高めることができ、タイ代表チームとの交流を通して、国際交流もすることができた。</p> <p>○ 車椅子バスケットボール学校交流会及びチャンピオンズカップの観戦（ドイツ代表チームとの交流や応援） 時期的に中学校区交流バスケットボール大会への取組をしていたことと併せて、バスケットボールへの関心・意欲をより高めることに役立った。また、車椅子体験をすることで、バリアフリーについての興味・関心がより高まった。また、パラリンピックへの関心も高まり、車椅子バスケットチームのドイツ代表との交流を通して、国際交流もすることができた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○ ボッチャの活動について、職員研修を行い、職員への啓発を図ることができ、子どもたちへの指導へも効果的だった。 ボッチャの活動は、学年ごとに体験し、障害者スポーツへの関心を高めることができた。</p> <p>○ 車椅子バスケットボールの体験を通じて。障害者スポーツへの関心・意欲を高めることができたのは有意義だった。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○ 教育課程への位置付けについて、総合的な学習の時間を中心に、教科と関連付けながら、本校の特色ある教育として継続的に取り組む必要がある。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○ 教育課程の位置付けとともに、市教委の施策を積極的に活用し、オリパラ推進教育に取り組みたい。</p>